

# 武中の風

## 塵をまたがない

校長 坂中 裕一

21日に行われた第79回体育大会は、生徒たちの一生懸命な姿をご覧いただくことができ、嬉しい限りであった。日頃よりエネルギッシュで素直な生徒の姿をご覧いただきたいと思っていたところ、生徒たちは見事に応えてくれたことを嬉しく思った。応援団演舞も見応えがあった。「感動した」「目頭が熱くなった」などの感想を聞き、9月入り、連日のように練習に励んでいた生徒たちの努力が報われたような気がした。生徒たちも手応えがあったと思う。充実感が顔に溢れ出ていた。そして、多くの保護者、御来賓の方々にお越しいただいたこと、心から感謝を申し上げたい。

閉会式が終わり、校内を見て回った。あれだけ多くの観覧者がいらっしやっていたにもかかわらず、塵が落ちていなかった。お帰りの際、塵は全て持ち帰られ、或いは落ちている塵に気付き拾いながら帰られたのではないかと想像した。私はこのように思った。「我が子の通う学び舎を大切にさせていただいている」と。職員にもこの話をした。本当にありがたいと思った。

さて、生徒は世代が違いすぎるが、保護者の方はご存じだろうか。「哀川翔」。私は哀川さんの弟さんと高校時代の友人で、哀川さんが一世風靡セピアで活躍されていたころから存じ上げている。鹿屋市に凱旋公演された時もセキュリティースタッフとして参加した。ある番組で哀川さんが、子供の躰に「塵をまたぐな」という言葉を使っていると話されていた。哀川さんの家訓の一つは「嘘をつかない」というものであるらしいが、目の前の塵をまたぐという行為は、改善すべきことを気付いていながら無視する、要するに「嘘をついている」という例で話をされていた。改めてこの話を思い出したとき、日頃このような行いができているかと反省する。校内の廊下に落ちている綿埃わたぼこりを見て通り過ぎることがある。気になりながらも「またいでいる」のだ。視点を変えて思い出せば、小・中学生の頃「後で後では為ないに等しい」と言われ続け、それでも朝になって「生活の記録」を書いていた。大学受験が上手くいかず、父親に何が原因であったかを問われた時、私は「朝、『生活の記録』を書いていた習慣かもしれない」と話したことがある。目の前の課題、やるべきことを一つ一つ逃げずに解決し、それを積み重ねてこそ力が付くのである。大谷翔平はどうであろうか。大谷翔平はグラウンドに落ちている塵をさりげなく拾いポケットにしまい込む姿が紹介され賞賛された。今の大谷翔平の成績は、日々の努力はもちろんのこと、目の前の課題を放っておかないこの塵拾いの習慣が生んでいるのではないかと思う。

三年生は大きな行事が一つ一つと終わっていく。10月20日は文化祭である。文化祭が終われば受験が本格化する。臆することなく、ポジティブに考え、頑張ってもらいたい。そして、「塵をまたがない」ことを習慣にしてみてもどうだろうか。目の前の改善すべきことが気になりはじめ、受験にも良い結果をもたらすのではないかと思う。

体育大会に話を戻したい。今年は生徒たちが持てる力を十分発揮して競技に臨んでくれた。これをベースにすれば、もっと充実した、そして見応えのある体育大会ができるはずである。また、多くのご家族が、体育館や武道館をはじめ、校内の至る所でお弁当を囲んで昼食を取られていた。朝早くからのお弁当の準備は大変だろうと思うが、体育大会は、年に一度、家族が学校で楽しくお弁当を囲む貴重な場であると思った。来年の体育大会は、生徒たち一人一人の顔がもっと保護者に届くような種目を工夫してみたい。



### 10月の行事

- |        |                  |
|--------|------------------|
| 9日(木)  | 生徒会立会演説会         |
| 10日(金) | 3年血液教室           |
| 15日(水) | 芸術鑑賞会            |
| 20日(月) | 文化祭<br>2-1あいさつ運動 |
| 24日(金) | 3年共通テスト          |
| 27日(月) | 2-2あいさつ運動        |
| 31日(金) | 1年ふるさと探訪         |